

ネパール・バレーボール・ミッション 最後はボール、自分で拾いました



NPO法人 バレーボール・モントリオール会

「最初はボール拾いは人まかせだし、初日が終了した時点でボールはなくなるし、どうなることかと思ったけれど、何度も日本語で言い聞かせるうちに、わかった?と聞くと、首を横にかしげて、ハイと返事してくれるようになって、本当に可愛かった」

2007年4月、1976年のモントリオールオリンピックでの日本女子バレーボール金メダリスト3名がネパール東部を訪れ、バレーボールの知識や技術を伝え、難民の若者と交流した。

ブータンから逃れた難民が避難しているベルダンギIIキャンプへの3日間の訪問中に、ボールや専用シューズといっ

たスポーツ用品が白井貴子さん、金坂克子さん、矢野廣美さんたちから贈られた。彼女たちはモントリオールでソ連を3-0で破って金メダルを獲得した時のチーム12名の一員である。

ベルダンギIIキャンプは、難民約10万6000人が住むネパール東部の7つのキャンプのうちの1つだが、今回の訪問はキャンプの子どもたちや若者に暖かく迎えられた。長年使い古された安価なボールにかえてプロ用のバレーボールが贈られると、彼らは興奮を隠しきれない様子だった。

バレーボールのトレーニングをサポートするため、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの職員1名、早稲田大学学生4名も参加した。また、スポーツトレーナーで鍼灸師の稲葉俊

顕さんによるマッサージ教室や、写真家の山崎康司さんによる写真教室も同時に開催された。

今後、一部のメンバーでネパールの難民キャンプを再訪問する予定。難民キャンプでのバレーボールの浸透度を確かめつつ、更なる交流を深めてくることだろう。

関連情報:

<http://montreal.sports.coccan.jp/>



ベルダンギII難民キャンプでバレーボールの指導をする白井貴子さん
©フォート・キンモト

三菱ダイヤモンドカップゴルフ



三菱グループ 関西テレビ放送株式会社 SRIスポーツ株式会社

国内屈指のゴルフトーナメントである三菱ダイヤモンドカップゴルフは、「ふれあい、感動、そしてチャリティ」



チャリティ基金贈呈式の三菱繁光大会名誉会長(右)と滝澤三郎UNHCR駐日代表(左)
©大会事務局

をスローガンに、ODAのような大規模事業ではなく、より実生活に密着した活動をしている団体への支援を趣旨としている。主催の三菱グループ、関西テレビ、SRIスポーツのみならず、ギャラリー、ボランティア、選手会、そして開催ゴルフ場もチャリティの趣旨に賛同し、開催地域の福祉活動とUNHCRの難民援助活動へ継続的な支援を実施している。

難民援助活動へは、日本UNHCR協会を通じて、総額で約5697万円ものご寄附をお寄せくださっている(2003～2007年大会)。これは、ゴルフトーナメントとしてのみならず、日本の民間の皆様からのご寄附では最大規模のひとつである。また、関西テレビの大会放映中に、UNHCRの活

動について紹介していただき、難民支援への理解と啓蒙においても、本大会が果たしてきた役割は大きい。

大会事務局は、「UNHCRの援助対象者の半分以上が子どもたちと言われています。なかには親を亡くした子どもも少なくなく、これからの新時代を背負っていかなくてはならない子どもたちの成長を少なからずサポートできればと考えています」と、その支援の意義を語っている。国際紛争や様々な迫害によって増加している約3300万人の難民・避難民を援助するUNHCRにとって、三菱ダイヤモンドカップゴルフのような継続的なご支援ほど心強いものはない。

関連情報:

http://www.ktv.co.jp/sports/golf/charity/ch_index.html